

中学生作文の部
【国土交通事務次官賞】【最優秀賞】
名取市立第二中学校 1年 齋藤 梨奈

土砂災害に備える

土砂災害は、人の大切な命や物を奪う恐ろしい災害です。

最近、ゲリラ豪雨や台風の影響を受けて、全国各地で土砂災害が発生しています。過去十年間の土砂災害発生件数を見ると、平均して一年間におよそ千件もの土砂災害が発生しているのです。平成二十二年土砂災害発生件数は、千二百二十八件で、ほとんどの都道府県で土砂災害は発生していることが分かります。土砂災害が発生するおそれのある危険箇所は、日本全国で約五十二万箇所もあるのです。

なぜ日本では、こんなにも土砂災害が起きやすいのでしょうか。私は、このことについて調べて見ました。その結果、日本の山は、比較的もろくて、崩れやすい岩や土でできていることや、梅雨や台風などの時には、二倍半くらいの雨が降ることなどが分かりました。日本は土砂災害が起りやすい急峻な国土を持っていることも原因になっています。土砂災害自体は日本だけが起りやすい訳ではありません。海外では、日本と同様の急峻な国土を持つインドネシアやネパールなどでも多数発生しており、年間千人程度の死者を出しているとのこと。日本で最も起きている土砂災害の種類は、がけ崩れです。がけ崩れとは、地中にしみ込んだ水分が土の抵抗を弱め、雨や地震などの影響によって急激に斜面が崩れ落ちる現象をいいます。崩れ落ちるスピードは速いため、人家の近くで起きると逃げ遅れる人も多く、死者の割合も高くなってしまいます。

私は、土砂災害を生で見た事はありません。ですが、土砂災害がどれほど恐ろしく、悲しいものなのかは、ニュースや新聞を通して知っているつもりです。

それでも、私は、一つ疑問に思うことがあります。がけ崩れのスピードが速いということは分かりましたが、なぜこんなにも逃げ遅れる人がいるのか、ということです。それは、土砂災害が起きるときの前兆というもの私たちが詳しく知らないからです。前兆とは、何かが起こる前に現れるしるし、まえぶれのことです。がけ崩れはいきなり起こるのではなく、その前にいくつかの前兆があるのです。例えば、がけにひび割れができ、小石がパラパラと落ちてきたり、がけから水が湧き出たりといったことです。また、地下水からの湧き水が止まるといった前兆もあるそうです。このような前兆を見たら、すぐに安全な場所に避難することが大事だと思います。

ですが、がけ崩れだけが危険というわけではありません。土砂災害の種類には、他にも、岩石が多量の水とともに粥状になって谷や溪流を流れ落ちる土石流や、緩い斜面において、比較的ゆっくりと長時間にわたり土砂が移動する地すべりといったものもあります。

このような「災害」には、その災害が起きやすいと言われている危険な場所があります。がけ崩れの場合、がけの上頭がせり出しているところや、急ながけで高いところなどが、がけ崩れが起きやすい危険な場所と言われています。土石流の場合は、大きな石がゴロゴロとある谷川や、裏山に急な谷川があるところなどが危険な場所と見なされるそうです。もし、地震が起きたり、大雨が降り始めたりしたら、すぐに危険な場所からは離れ、近付いてはいけないということを忘れないでいたいものです。

私はまだ中学生ですが、自分でもできることをいくつか考えてみました。

一つ目は、雨の量に注意することです。一時間に二十ミリ以上降っていたら、そのときは注意した方がいいと思います。そのまま強く降り続いたら、土石流などの災害が起きる危険性が出て来るからです。

二つ目は、危険な場所を事前に確かめておくことです。災害が起きたらすぐに逃げられるように、逃げる時に使う道も確認しておけば、逃げ遅れることも無くなると思います。

三つ目は、避難場所を決めておくことです。まず、大きな災害が起きたらすぐに避難場所に行き、じっと待機しているのが一番安全だと思います。そのうえで、あせらずに情報を聞き、正しい判断をするということが大事だと思います。

自分がもし前兆に気付いたら周りの人々に伝えることも忘れたくありません。

「自分の身は自分で守る」ということを忘れず、いつ何が起きても大丈夫なように日頃から備えておきたいものだと、改めて私は考えています。